

微生物感染症学分野

教授 寺尾 豊

平成24年7月1日、新潟大学大学院医歯学総合研究科 微生物感染症学分野の名称で当研究室は始動いたしました。平成28年4月1日現在の構成員は、以下のようになります。

1. 微生物感染症学分野 教員

(1) 専任教員

教授：寺尾 豊

准教授：小田真隆

助教：土門久哲

(2) 共同研究教職員

助教：前川知樹

(高度口腔機能教育研究センター)

助教：竹中彰治 (う蝕学分野)

助教：大墨竜也 (う蝕学分野)

教務補佐員：黒澤美絵 (小児歯科学分野)

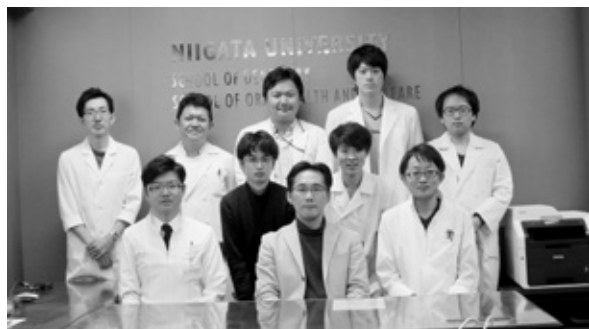
(3) 大学院生

4 年：坂上雄樹 (う蝕学分野)

2 年：永井康介 (顎関節治療部)

2. 分野情報の発信

歯学部ホームページの下層に、当分野のオリジナルサイトを開設しています。研究室運営の方針として、「地域と交流し共に飛躍する」ことを掲げておりますので、歯学部と新潟大学の最新情報、その魅力ならびに教育研究活動を広く市民の皆さんへ発信しています。おおよそ年間に200回



微生物感染症学分野の構成員



微生物感染症学分野の分野ホームページ

程度の情報更新を行い、約50,000アクセスの訪問をいただいております。本稿に目を通していただいている皆さまも、一度ホームページをご閲覧ください。ご興味を抱かれましたら、サイトトップの赤ボタンからメール送信等をしていただければ幸いです。

【ホームページURL】 <http://www.dent.niigata-u.ac.jp/microbio/microbio.html>

3. 教育活動

歯学科では、2年次学生の「基礎科学演習」と「早期臨床実習Ⅱ」を分担講義しています。3年次学生の「微生物学Ⅰ・Ⅱ(実習含む)」は、平成29年度からの新カリキュラムで2年次へ移行することが決まっています。また、口腔生命福祉学科では、2年次学生の「疾病とその病態」の分担講義を行っています。歯学部生の多くは、歯科医師/歯科衛生士/社会福祉士としての将来を決めており、「歯科」に直接の関連性を見いだせない科目は敬遠しがちになることがあります。しかし、既に現在の歯科医療人には、口腔と全身の歯学医学を統合的に理解する知識と思考力が求められています。そこで、担当する全ての授業において、歯科診療の基幹となる基礎科目の実例を示しながら、「自ら学びたくなる」授業にできるよう務めています。



微生物学授業の様子

これら授業の様子や履修学生からの意見・感想につきましても、分野サイトに掲載しています。

4. 研究活動

新たな分野として、新たな課題を設定し研究を展開しています。主に、口腔から全身へと波及する細菌感染症について、疾患発症のメカニズム解析や制御方法の検索を進めています。今や歯科と医科の双方の課題となった「誤嚥性肺炎」が、直近で最も力を注ぐテーマのひとつになっています。新E棟4階では、歯学基礎系、薬学基礎系、そして歯学臨床系のバックグラウンドを有する構成員たちが相互連携をとりながら、日々の実験を推進しています。2年前からは、前出のように学部生たちも課外の研究に参加するようになっています。その結果、分野開設からの約3年半で、各種学会・研究財団から数多くの賞をいただくことができています。

5. 研究室の内覧

私たちの分野は歯学部改修工事の最終ブロックであったため、先日研究室のリニューアルを果たしました。まずは、片廊下の特徴を活かし、広い「第1研究室」を設置しました。室内には、新潟大学でも有数の遺伝子実験設備を整えていま

す。「第2研究室」は、「第1研究室」からガラス壁で隔てることにより、扉の開閉無しに室内の実験状況が確認できます。主に清潔な細胞実験を行うため、不要な人の出入りを防げる設計にしています。「第3研究室」は、構成員が研究結果を纏めるPCワークスペースになっています。中央にはディスカッションテーブルを配置し、総合病院を臨む分野一番の風景に面しています。残りエリアは、「教授室」と「ミーティング室」になります。

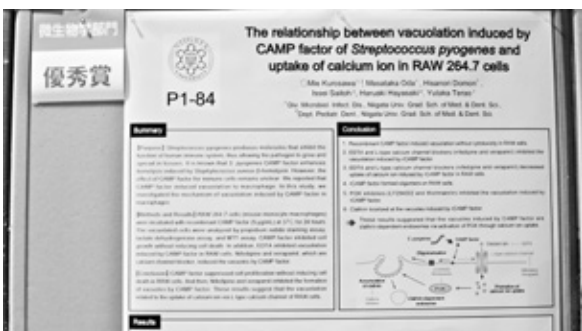
最後になりましたが、新潟大学歯学部50周年誠におめでとうございます。そして、これからは、新たな50年に向けて、私たち微生物感染症学分野も微力を尽くす所存です。どうぞ、これからもよろしく願いいたします。



第1研究室



第2研究室



大学院生の受賞



第3研究室